

2017年7月15日(土)

日刊大牟田 2面

共同研究に特別賞

有明高専 IOT技術で生産性向上へ

有明高専のIoT Lab(石川・清水研究室)の石川洋平准教授ら研究チームが開発したIoT(モノのインターネット)のセンサーボードを使ったインターネットのシステムがRuby・コンテナツプオーラムFUKUOKA2017で「ruby特別賞」を受賞した。石川准教授は「ハードのホワイトタイガーは有明高専と民間企業ソフトとなるサイトは九州工業大学が中心に開発しました。農業から工業まで幅広く応用できると思います」と話した。



共同開発のサイト

「IoT」は、コンピュータなど情報・通信技術だけでなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を備え付け自動認識制御、遠隔操作などを行う技術を表している。有明高専の開発チームは石川洋平准教授のほか、ゴーチエ・ロヴィック准教授、専攻科一年生の吉富康英さん、森下伊織さん、技術専門職員の池上勝也さん、研究室の事務補佐城

門寿美子さんの六人。ギガファーム㈱も参画している。「ホワイトタイガー」を活用できるサイト「Platform.click」を九工大とSSCK㈱のチーム

が開発した。吉富さん、森下さんは「例えばトマト畑の塩分濃度を計測したり、工場の温度管理に活用し、生産性の向上が望めます。大牟田の企業もIoTに興味があつたり、導入を考えているはず。生産性をあげるために導入しませんか」と語った。問い合わせは有明高専(五三・八六一番)へ。